

赤ちゃんの家さくらんぼ

平成24年度事業報告

1、基本方針

<こんな乳児院をめざします>

- ① 子どもたちに「もうひとつのあったかいお家」となる乳児院づくりをすすめます。
 - ・子どもの処遇内容については、各クラスを中心に子どもたちの課題を明らかにし、職員全体養育に関わった。また、小グループ単位で食事をしたり、遊んだりできる環境を整え子どもたちに密に関われるように努力した。
 - ・お家のような体験ができるように、食事の時には、子どもたちの目の前で炊飯器やお鍋からご飯や汁をつけ温かい食事を提供した。また、行事計画書に基づき、担当保育士と外出し、お買い物や公園遊び、電車に乗って担当家庭に出かけるなど楽しい経験をした。
- ② 保護者とともに子どもを育てます。
 - ・ 夏祭りやクリスマス会への参加を呼びかけて来院してもらい、子どもたちの成長の姿をみてもらった。
 - ・ さくらんぼ便りを毎月発行し、子どもたちの元気な姿の写真と共に、さくらんぼで過ごす生活の様子をお便りにして郵送した。
 - ・ 引き取り前に家庭訪問し、生活環境を確認するとともに、子育て生活の不安や悩み、アドバイスができるように心がけた。また、今後の子どもたちの育ちを見守る子育て支援体制を確認した。
- ③ 職員が生きいきと働き続けられる乳児院をめざします。
 - ・ 4月より、育児休暇復帰職員の短時間勤務を導入し、子育てをしながら働く体制づくりに努力した。
- ④ 地域に根ざした子育て支援センターをめざします。
 - ・ 魚屋町のぎやらりー木屋さんの一角を拠点にし、犬山市の行う「赤ちゃんの駅」の利用や子育て相談活動を宣伝した。
 - ・ 地域のイベント「おもしろそうだがや」の参加者に風船を配り、子育て支援活動を広めた。

2、専門分野別の組織作りと役割を明確化し稼働させる

- ① 保育 新人職員を迎え、職員全体で養育の基礎を振り返るために毎月院内学習会を行った。小規模グループケア養育実践に向けて、施設見学し論議を進めた。
- ② 看護 毎月、緊急対応訓練学習会を行い、危機安全意識を高めるように努めた。子どもたちの健康状態を把握し、早期受診に努め、健康管理に繋がった。
- ③ 食育 子どもたちの育ちに繋がる食育計画を基に、保育現場と連携し、楽しく、心温まる食事をめざし実践した。
ミニ離乳食学習会を継続的に行った。
- ④ 事務 小規模グループケアハウスの建設を計画的に実行した。

3、各係りの仕事を明確にし、遂行する。

<写真> さくらんぼ便りに間に合うように毎月、写真を出すことができた。

<被服> 季節や子どもの体にあった衣類の出し入れを行うことができた。

<日用品・ミルク> 在庫管理の棚を設置し、ミルクの発注・納品がスムーズにできた。

<オムツ>計画的な発注、在庫管理に心がけ、オムツの補充ができた。

<製作> 毎月の歌を壁面に貼りだしたり、子どもたちが楽しく作成したものを室内に飾り、子どもたちと一緒に楽しめるものに繋げた。

<行事> 誕生会の係りは年間計画に添い、行事計画書を提出して計画的にできた。また、福祉バスを利用し、ぶどう組の子どもたち全員で遠足に出かけ、楽しい取組みとなった。キルシェハイムとの合同夏祭りは、実行委員を中心に当日の役割分担をし、積極的に取り組めた。

<文集(絆)>愛知県下の他施設とともに、文集「朋」作りに積極的に取り組んだ。

4、各種会議の充実を図り、決定事項の徹底化

会議が終わり次第、議事録を作成して全員（パート職員を含む）に配布し、養育内容の理解に努めた。

5、家庭支援専門相談員の配置

児と親・里親とのより良い関係のための「支援プログラム」に具体的取組内容を追記した。進行状況を面談にて確認し、次段階へと進めていくようにした。

児相とは常に連絡を取り、引取りや措置変更に際しては、必要に応じて訪問し地域資源の活用等、支援が途切れないように努めた。

6、職員の資質向上および力量を高める

① 新人研修

② 基本理念、方針を深める学習

③ 各種研修に積極的に参加させる

県施設長会主催の研修や、外部研修に積極的に参加した。院内研修では、新しい職員を迎えて、養育の基本を振り返りながら、テーマに沿って学習をした。

④ 自己評価チェックを取り入れる

自己評価チェックを10月に実施し、フィードバックを全職員に行うことができた。

6、設 備

病気の感染を防ぐために、業務用大型空気洗浄機と微酸性電解水装置を導入した。

8、資金の計画

通常経費は、措置費収入及び補助金で賄えた。運営費補助金（福祉ポイント加算）は3.5ポイントとなった。

短期支援事業は一宮市と契約を継続した。

育児支援地域貢献活動——子育て相談宣伝活動

里親支援——里親引取を前提に養育相談に取り組んだ。

訪問活動——外泊時・引き取り前・引取後に訪問することができた。